



## 日本酒

### ▼サステイナブルな酒造り

環境への関心が高まる中、持続可能な社会の実現に向けて積極的に取り組んでいる神戸の酒造会社を2社紹介する。

1社は、醸造過程で排出する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を実質ゼロにした日本酒を発売した。酒米の加熱等を使用する燃料について、ガス使用時のCO<sub>2</sub>排出量をCO<sub>2</sub>クレジット(※)で相殺し実質ゼロとみなされるカーボンニュートラル液化天然ガス(CNL)に切り替えた。あわせて、電力も再生可能エネルギー由来の電気に変更した。また、精米歩合の抑制、醸造期間の短縮によりエネルギー使用量も減らした。これらの脱炭素化に伴うコスト増は価格転嫁せず、生産の効率化で補う。さらに瓶にはラベルの代りに鉛を含まないインキで直接印刷し、環境にやさしい素材を使用した。

もう1社は、日本酒のろ過で使用した活性炭を牛の飼料として生まれ変わらせた酒造会社である。従来、この活性炭は農産物の肥料として再利用されていた。飼料会社や畜産農家と協力して実証実験や研究を重ねたところ、この活性炭は子牛の健康を阻害する下痢を低減させるうえに、牛糞の悪臭を約9割減らせるなど牛にも環境にもやさしいことが分かった。清酒由来のタンパク質などを豊富に含み牛に有効な栄養源を備えており、今後、さらなる活用が期待される。

(※)植林などによるCO<sub>2</sub>吸収量を権利化したもの

## ケミカルシューズ

### ▼新たな商品開発および2022年の生産量

2023年に、日本ケミカルシューズ工業組合は「神戸シューズプレミアムライン」に「VOL.3」「神戸シューズ×SDGs」として初のスニーカー2種類を追加した。一つ目は「For The Blue Collection」で「廃棄漁網」を再生した生地を使用し、カジユアルで履きやすくソフトな仕上がりとなっている。もう一つは、「土に還る天然素材スニーカー」で、環境に配慮し土に埋めれば分解される生分解性レザラの素材を使ったシューズを開発中である。

また、同組合主催の展示会「日本ブランドシューズコレクション&全国サンダルフェア」は去る5月24〜25日に開かれた。コロナ5類移行後の開催で、出展者52社、協賛・特別出展1社、来場者1200名強とコロナ禍での展示会に比べ増加し、来場者減に歯止めがかかった。

なお、22年の生産量は、同組合加入企業75社の合計で704万足(前年比3.5%増)の



神戸シューズ  
プレミアムラインVOL.3  
神戸シューズ×SDGs  
[For The Blue Collection]

189億81百万円(同7.0%増)で、新型コロナの影響が底を打ち、17年以来5年ぶりに増加に転じた。

## 水産練製品

### ▼兵庫県はかまぼこ発祥の地

かまぼこの起源として「神功元年(西暦201年)、神功皇后が三韓渡航の時に神戸の生田の杜で、すりつぶした魚肉を銚の先につけて焼いたものを食べた」という伝説があり、兵庫県がかまぼこの発祥の地とされている。また、「かまぼこ」が初めて登場した文献は平安時代の「類聚雑要抄」という古文書で、永久3年(1115年)に開かれた関白右大臣藤原忠実の祝宴の献立が載っており、今のちくわに似た「蒲銚」と名付けられた食べ物がかまぼこである。かまぼこ業界はこの年号にちなみ11月15日を「かまぼこの日」としている。

兵庫県蒲銚組合連合会は、発祥の地とされる生田神社の「生田の杜」に記念石碑を建立し、2015年11月15日にかまぼこ奉納を行った後、伝説にあるかまぼこの作り方を再現した。

また、23年5月31日に大丸神戸店で「兵庫発祥☆かまぼこイベント」が始まった。同連合会の加盟企業を中心に取り扱い業者が1社ずつ週替わりで出店している(12月末までの予定)。

なお、「経済センサス」によると、20年の兵庫



伝説のかまぼこ作りの再現

県の水産練製品の出荷額は358億73百万円であり、新潟県に次いで全国2位となっている。